

前向きな言葉 輝く魔法

校長 桑野 啓子

学園だより3月号をお届けする時期を迎えました。2020年からはじまった変化や変更、制限のある日々を数年過ごしました。今年度もご家庭での健康管理等引き続きのご協力をいただきながら、少しずつではありますが、取り戻すことができたこともあり、しみじみありがたく思っています。保護者のみなさん、地域の方々が、学園に寄せてくださる、変わらぬあたたかいご支援のお気持ちやお言葉に大いに励ましていただいたおかげと心より感謝申し上げます。

おかげさまで、多くの保護者のみなさんに、グローバルタイム、授業参観、懇談の機会に、対面でご来校いただくことが叶いました。(今月は7年8年の保護者のみなさんに授業参観・学年懇談でご来校いただきます。)11日には、校区青少年を守る会さんが、「第2回校区たんけん」を実施して下さいます。地域の方々、保護者の方々には見守りのご協力もいただくと聞いています。多くの子どもたちの笑顔を楽しみに、「校区たんけん」ゴールのアベニュー前で待っています。みなさん、どうぞよろしくお祈りします。そして14日には、12期生の卒業証書授与式を挙行いたします。9年生の卒業に向けて、1～8年の子どもたちによる「卒業おめでとう」の校内掲示が始まっています。「一貫校ならではの！」と喜びを感じるとともに、お別れの淋しさも感じる3月です。

さて、タイトル「前向きな言葉 輝く魔法」とは、昨年9月に開催された講演会で、ピアニスト辻井伸行さんの母、辻井いつ子さん、競泳池江璃花子さんの母、池江美由紀さんが、我が子の可能性を信じて寄り添われたエピソード記事からの引用です。辻井さんは2歳3か月のころ、おもちゃのピアノを弾き始め、その後ピアノの習いはじめに「よく頑張ったね」といつも声をかけ、いきなり否定的な言葉を口にしないよう心がけておられたそうです。「だれがなんと言おうとずっと応援して行こうと思ってやってきた」「成功体験を重ねて自信がついた」とのお話でした。池江さんは「プラスの言葉を使っていると、そういうふうになっていくと思うし、かける言葉によって子どもたちは成長していくと思ってきた」と話されました。「無理」とか「ダメ」という言葉を口にしないようにされたそうです。「限界をつくらずに、強い心を育てる」とのお話でした。ちょうどいま、通知表・あゆみの最終確認をしています。子どもたちの多くの頑張りや成長について記載しています。ご家庭におかれましても子どもたちと、次年度に元気のでる振り返りをどうぞよろしくお願いいたします。

「子どもたちのために」と学園にお気持ちを寄せてくださる保護者、地域の方々との連携を支えに、どんなピンチの状況にあっても、トライするチャンスだと考えて参りました。異学年交流にトライしたり、キャリア教育で学びを深めたり、多くの子どもたちが実行委員として活躍したり、どう伝えればよいのだろうとお友だちとの距離に悩んだり、力を尽くして面接や入試に臨んだり、、、と2022年度も様々な場面でトライする子どもたちの姿がたくさん見られました。「学ぶ、鍛える、つながる」を目標にしております彩都の丘学園は、数年前から1～8年のみんなで「9年生を送る会」を行っています。9年生の卒業に心を寄せながら、締めくくりと新年度への準備として、だれにとっても有意義な3月にしたいと思います。みなさんとご一緒に、彩都の丘学園は、子どもたちそれぞれの輝きを応援して参ります。2023年度も引き続きご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。